

# CONTENTS

▼土木に関わる人と活動  
 ▽社会課題への取組み  
 「泳げる荒川の復活をめざして」—あらかわ遠泳プレ大会—：三井元子

▼土木のはなし  
 ▽これも土木  
 ・「これも土木」を発見する話（2）：野村吉春

▼フレンズコーナー  
 ・「二刀流 徳島の橋カード 48橋 吉野川版」の作成とその活用：森山卓郎

▼事務局通信

# CNCP通信

VOL.115／2023.11.5

## ■今月の土木■



### ●クリアファイル見開きイメージ



●吉野川版一式

●橋並べ

■「二刀流 徳島の橋カード 48橋 吉野川版」の作成とその活用  
 遊びながら徳島の橋に興味を持ってもらえるように、吉野川に架かる橋の写真を用いたカードを作成しました。このカードは、かるたとして遊べるだけでなく、独自のカードゲーム「橋並べ」も遊べる二刀流になっています。「橋並べ」とは、トランプの七並べのように、河口の吉野川サンライズ大橋（1番）から山間部の大歩危橋（46番）までの番号を入れた橋のカードを順番に並べて早さを競うものです。このカードを用いた小中学校への出前授業も行っています。（森山卓郎）  
<https://www.anan-nct.ac.jp/notifications/32837/>

▼フレンズコーナーに続く。

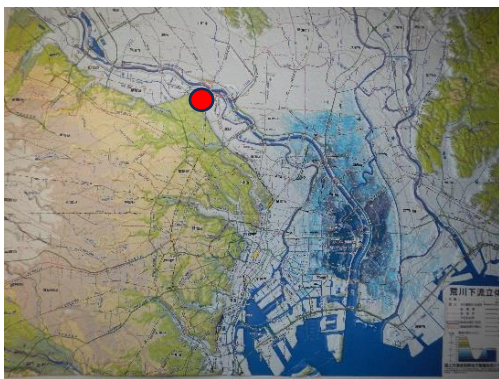


## ▼土木に関わる人と活動／社会課題への取組み

「泳げる荒川の復活をめざして」  
—あらかわ遠泳プレ大会—NPO 法人あらかわ学会 副理事長  
三井 元子

明治 43 年の東京大水害で壊滅的な打撃を受けた国は、ついに隅田川から分岐する放水路開削を決定し、翌年から土地の買収や測量に着手。大正 13 年（1924）10 月 12 日、荒川放水路工事がほぼ完成し、北区志茂で「荒川放水路通水式」が開催されました。工事はそれから 5 年延期され、1929 年（昭和 5 年）②関連する工事を終えて完工しました。

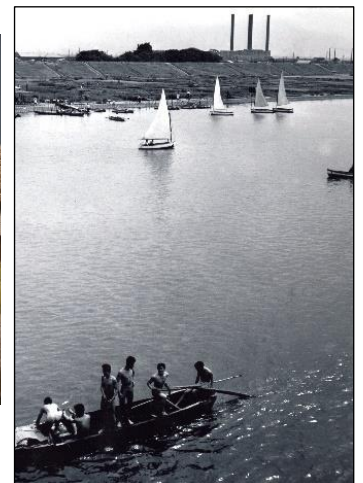
19 年もの歳月をかけて行われた工事は、エキスカベーターという近代的な大型機械を入れて、平らな大地を削って、土を積み上げては横移動して土手を形作っていきます。トロッコに土を乗せて線路上を運ぶ人夫さん達の様子を見守る子どもたち。夕方になって作業が終わると、こそこそと子ども達が現れてトロッコに乗って遊んでいたそうです



海までの 22 km が荒川放水路



エキスカベーター(左)とトロッコ



西新井橋付近

10 月 12 日、全長 22m、堤防から堤防までの距離（川幅）500m の河川敷に幅約 200m の深い溝が掘られ、そこに一気に水が流れ込んできたのです。その時の人々の興奮が、眼に見えるようです。

さて、突然現れた大河で人々はなにをしたのでしょうか？それは、「レクリエーション」です。

川で泳ぎ、貸しボート屋で借りたヨットや手漕ぎボートで水面を楽しんでいました。なんて伸びやかな時代でしょう。

ここに私の父が持っていたアルバムが一冊あります。30 ページにも及ぶそのアルバムには、放水路にできた水練場の写真で埋め尽くされています。

私が小学 1 年生の頃、「ここに水練場があって、昔は泳げただよ」聞き、びっくりしたのを覚えています。「こんな汚い川でどうして泳げたの？」と不思議でたまりませんでした。





最後尾のオレンジ帽子が筆者

私が小学校 1 年生の頃は、高度成長期だったので、荒川沿川の下町にはたくさんの工場が立ち並び、煙突から煙を出していました。吉永小百合主演の「キューポラのあるまち」が有名です。工場から流れ出る廃液で、川の水は汚れて、葦の繁る水たまりに滞留し、悪臭を放っていました。

長じて、平成 6 年（1994）の荒川放水路通水 70 周年の頃、当時の荒川下流河川事務所所長から、

「三井さん、お父さんのアルバムにあったように通水 70 周年記念として荒川で泳いでみたらどうですか」と言われ、水質を調べてもらいました。すると糞便性大腸菌群が 5000 個 / 100ml 以上もあり、とても無理と分かりました。

それから待つこと 30 年、荒川下流では、平成 8 年（1996）から始まった『荒川将来像計画』に基づき、まちの緑との連携を意識したゾーニングが話し合われて、自然再生地の整備が進みました。東京の下水道整備も進み水質は徐々に良くなっていき、水上スキーを楽しむ人さえ現れてきたのです。

令和 6 年（2024）度は、荒川放水路通水 100 周年です。2022 年 10 月、あらかわ学会の呼び掛けで「荒川放水路通水 100 周年事業市民実行委員会」が正式に立ち上がりました。

私は、父に教えられたお陰で海での水泳には自信があります。5 年前からは、那珂川で開催されている「水戸黄門まつり 那珂川遠泳大会」に、夫が主宰している水府流太田派「霞ヶ丘游泳会」の方たちと共に参加して 3.5 km を泳いでいましたので、「泳げる荒川の復活」をするなら今しかない！と思いました。

今年は、プレ大会として川での泳ぎ経験がある方たちに呼びかけました。コースは満ち潮を活用して左岸の小菅から上流に向かって 840m 泳ぎ、右岸の千住虹の広場で上陸することにしました。他の船が突っ込んでこないように監視するパトロール艇 2 艇、泳者に寄り添う伴走艇 2 艇を契約しました。（船が決まらないと泳ぐ日も決められないので苦労しました）

9 月 16 日（土）15:00、開会式で荒川下流河川事務所出口所長から激励の挨拶を頂き、いざ入水です。11 人の泳者が次々と川に入り、隊列を組んで泳ぎ出しました。心配していた臭いもなく、特別な味もなく快適でした。想像していたよりも満ち潮の流れ早く、橋脚付近では隊列が乱れましたが、直ぐに立て直しゴールの虹の広場に向かって泳ぎ続けました。伴走船には出口所長を始めスタッフが 5~6 人づつ乗って応援し、見守ってくれました。虹の広場には、いつの間にか 50 名ほどの方たちが集まり、手に手にフラッグを持って応援しています。上陸すると、泳者 11 名はマスコミに囲まれてインタビューを受けました。

泳いだ後は、千住の老舗銭湯に行ってもらい、北千住の居酒屋で打ち上げ、交流会をしました。感想を伺うと、ベテランの方でも「あまりの大河に、最初は心臓がバクバクした」といっていました。また、「橋を越えて、気持ちよくスイスイしたところで終わってしまったので、来年はもっと泳ぎたい」と言う方も。

荒川での遠泳大会が恒例行事となるよう、担い手を募集していきます。あなたも泳いでみませんか？



泳ぎ終えた泳者 11 名とスタッフ

## ▼土木のはなし/これも土木

## 「これも土木」を発見する話（2）

（特非）シビルNPO 連携プラットフォーム 理事  
NPO法人州都広島を実現する会 事務局長

野村 吉春



## ■はじめに

前回の第一話は、「これも土木というお宝探しのルーツ」のご案内をしました。そこで第二話では、まずは「これも土木」という「ビックリするお宝」をご覧に入りたいと思いますが・・・それを読者にご理解いただくには、もっと地に足の着いた展開が必要だろうと考えました。

つまり、今回は「お宝発見の方法論」を示した訳ですが、その原点となる「これが土木」って部分を押さえておくべきと考え、前回お示した「6つのお宝発見のルーツ」の中から、今回はまず①の「見た目での認識」について、読者の皆様といくつかの考察を試みたいと思います。

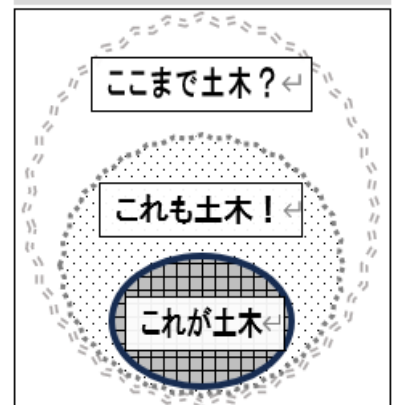
## ■見た目での認識

筆者は、常日頃から土木は「見た目での認識」がたいへん重要だと思っています。つべこべ言う前に「まず、見た目」でしょ！

そこで、右図の「土木って何だという概念図」に示す、「これも土木！」あるいは「ここまで土木？」へのお宝探しに向かう前に、「これが土木」という、「土木の原点」は「今、ドウなっているのか？」、そこをしっかりとレビューしたいと思います。

そこで、どちらも疑うことのないその原点は、「土木工事の現場」、そして「そこで働く土木作業員の姿」じゃないでしょうか。

## 「土木って何だ」という概念図



## ■身近な工事現場より

下図は、3ヶ月前の自宅付近での、道路掘削による埋設管路の工事のイメージ絵です。



土木作業員は、重機 1 ダンプ 1、穴の中の作業 2、若い現場担当が 1 の計 5 人。それに歩行者の誘導に 1、交互交通のため旗振りの方が方は 70 歳超えの男性 1、後方は 20 代の茶髪の女性 1（夜の仕事もありそうな風貌です・・・）。この現場で若いのは現場管理者と交通整理員の 2 名だけ。

ともかく、この程度の小さな現場に全部で 8 人の作業員が働いており、「建設界の人手不足」が透けて見えます。しかも、今夏の炎天下で、大変キツイですよ。

### ■ 社会からの見え方

筆者は「土木だいすき人間」であると、土木学会誌の中でも述べているような調子なので、近所の工事現場で頑張っている人には、「暑いなかお疲れ様です」などの声掛けをします。

しかしながら、この世の中、皆が皆「土木だいすき人間」ばかりじゃないので、このような工事現場に対する市民社会の見方は、下表に示すような厳しい目線が伺えます。

現場への目線	指摘されている内容	参考文献
交通整理員への厳しい罵声	車を待たせるとイライラするのか、後方の旗振りの女性に向けて、「バカたれ！」との罵声を発する声も聞こえます。	これは筆者の体験です
無駄な公共事業との不満の声	近隣では数少ない 2 車線道路なので埋設物が多く、周囲の宅地開発に応じ、何度も掘り起こして、「無駄ばかり！」との不満も聞かれます。	これも筆者の体験です
土木作業員への軽蔑の眼差し	とある現場では、子連れの女性が、工事現場の土木作業員を指差して、子供に「〇〇くんも勉強しないとあんな作業員になるよ」と教えていた。	この種の、教育上の指摘は多数ある <a href="https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question">https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question</a>
土木を馬鹿にする若者たち	とある現場では、私たちの作業を見ていた若者の一人が、「土方の仕事なんて誰にでも出来る、馬鹿がやる仕事だよ」との話声が聞こえた。	建設メディア「施工の神様」より <a href="https://sekokan-navi.jp/magazine/9414#anc-0">https://sekokan-navi.jp/magazine/9414#anc-0</a>
世間一般での底辺職業ランキング	新卒向け就活情報サイトにおける、「底辺職業ランキング」で、建設・作業員が何と「1 位」に選ばれていました。	下記の youtube にアップされています <a href="http://www.youtube.com">www.youtube.com</a>

### ■ で、それホンマか？

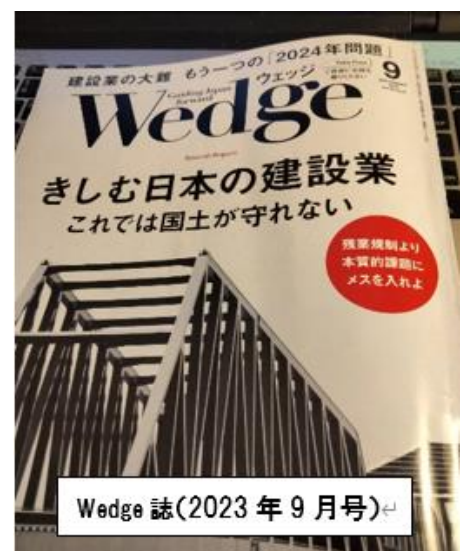
はっきり言って不愉快です。読者各位は「ふざけるな！」という思いをされるでしょう。

建設業界は重層構造なので、こうした「地方の小さな工事」は、大ゼネコンや中堅ではなく、地方の中小、あるいは下請による「末端の仕事」。なので、実感が湧かないかもしれません。しかし「こうした土木への認識」を、一旦は押さえておくべきでしょう。

これは、我々にとって遠い出来事に思えても、市民社会にとって「これが土木」とは、前掲の絵図に例示したような「土木工事」であり「土木作業員」の姿なのであって、先に申し上げた「見た目が重要」とはそのことで、市民社会には「土木が如何なるものか？」が、あの工事現場を通して透けて見えていると思われれます。

### ■ 現実に、いま建設業はどういう状況なのか？

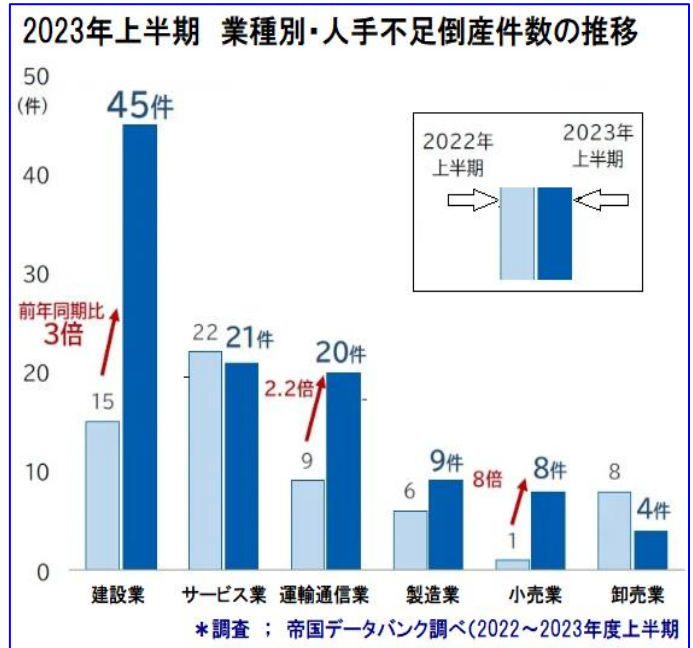
先月の Wedge 誌には「きしむ日本の建設業」～これでは国土が守れない～との副題のもと、建設業の特集号を刊行しています。



同誌を要約すれば、世の中「働き方改革」全盛の時代に、建設界は「深刻な人手不足問題」や「著しい高齢化」が押し寄せる中で、「旧態依然の業界構造」、「価格の安さと工期が優先され」、相変わらずの「社会的な地位の低さ」を指摘しています。

そんな中で、筆者が注目したのは「元請けの働き方改革で生じた付けを、全て下請けがカバーするのでは、職人不足と高齢化で、現場では悲鳴が上がっている」との厳しい指摘がなされている点です。

こうした現実を裏付ける、帝国データバンク調べの最新データによると、「2023年度上半期の倒産件数」は建設業がトップで、前年同期比の3倍と急増しています。



■「エッセンシャルワーカー」という定義

このまま建設業の倒産が続き、土木作業の担い手が無くなると、ドウなるのか？ 先のWedge誌は多数の事例を取り上げ、「これでは国土が守れない」と、厳しい警鐘を鳴らしています。

ここで、先の工事現場の絵図の話題に戻りますが・・・。

今年の異常気象とも言われる真夏の炎天下で、「外気温 40 度での仕事はキツイ！」「土埃と排ガスにまみれ汚い！」「車が多くて危ない！」と、まるで3Kのモデル現場ですが、筆者の住む広島市安佐南区では、宅地開発が近年急増しており、上下水、電気、ガス等のインフラ供給も待たなしで、このような小規模な現場力によって、地域の生活基盤が整えられてゆく訳です。

一般のコロナ禍における救急体制において、医師や看護師が「エッセンシャルワーカー（必要不可欠な労働者）」として社会的に注目されたが、他方で、暑さや寒さをいとわず対応する工事現場や、近年頻発する災害対応に尽力する現場作業員は、紛れもない「エッセンシャルワーカー」と呼ばれる存在ではないでしょうか。

■小学生の「将来なりたい職業」ランキング

表記のトップ 10 では、男女とも「建築士」が 10 位に選ばれているが「土木」という職業は見当たらない。これは、「人気」以前に「知られていない」のかもしれませんが。

女子に限れば「医師」「看護師」などは、コロナ禍での対応映像などを見るとキツイ印象を受けるが、「やりがいのある仕事」に見えるかもしれません。

「エッセンシャルなやりがい」は外せない重要ポイントです。

2022年度 小学生「将来なりたい職業」ランキング トップ10 

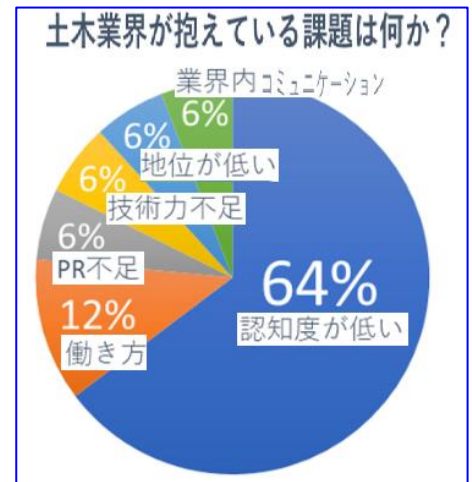
第16回 男子児童		
順位(前回)	職業	票数
1 (1)	サッカー選手・監督など	76
2 (2)	野球選手・監督など	73
3 (3)	医師	50
4 (5)	ゲーム制作関連	49
5 (6)	会社員・事務員	37
6 (4)	ユーチューバー	36
7 (12)	警察官・警察関連	29
8 (13)	プログラマー	28
9 (7)	プログラマー	25
10 (31)	パイロット	23
10 (11)	バスケットボール選手・コーチ	23
10 (7)	建築士	23
10 (10)	料理人・シェフなど	23

第16回 女子児童		
順位(前回)	職業	票数
1 (1)	医師	59
2 (3)	保育士	53
3 (9)	獣医	47
3 (7)	美容師	47
5 (5)	教師	46
6 (4)	イラストレーター	44
7 (2)	看護師	38
8 (8)	パティシエール	35
9 (6)	薬剤師	30
10 (15)	建築士	20
10 (11)	漫画家	20

\*2023.04.20 プレスリリース  
NPO法人日本FP協会によるアンケート調査

■ 土木の若手への期待

土木学会の企画委員会・若手パワーアップ小委員会も頑張っています。2019年には、「なぜ若者たちの土木離れが止まらないのか？」というテーマを掲げて、委員会のメンバーで調査を行った結果、右のグラフに示すように「認知度が低い64%」「働き方12%」「PR不足6%」といった課題を見出しています。



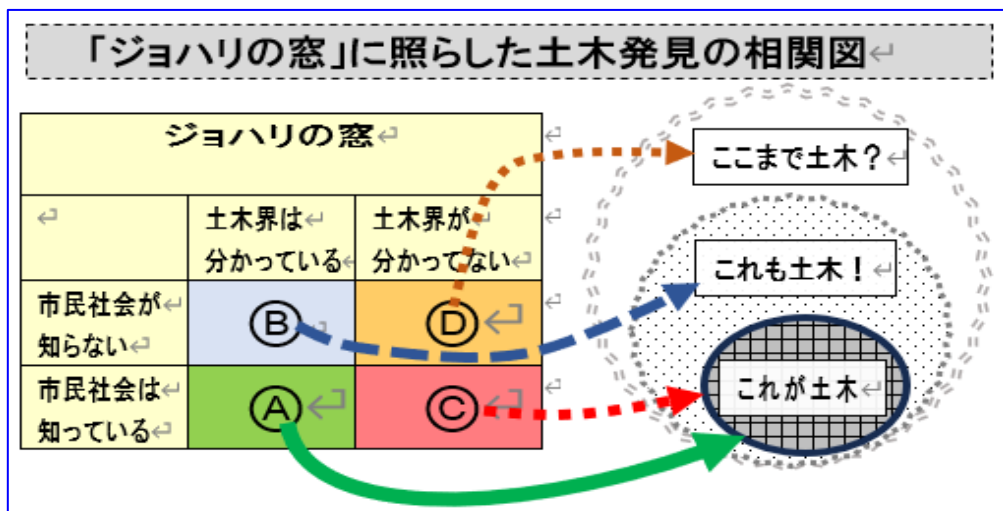
■ 改めて「これも土木」を目指し出発します

今回は「これも土木」じゃなくて、「これが土木」という話題に終始した感があるのですが、読者の皆様から「夢のある面白い話が一つも出なかった!」とのお叱りを受けそうです。

そもそも、「これが土木」という話なら、「橋梁とかトンネルやダム等のビッグプロジェクトを描いて欲しいなあ!」・・・そういうお気持ちは重々解った上での、筆者の地方での生活やNPO活動を通じて、市民社会から日常的に聞こえてくる「これが土木」をあえて提示しました。

次回の第三話からは、「これも土木」(ことと次第では「これまで土木?」)というレベルの宝探しをお約束します。今回、様々な面から深耕させて頂いた「これが土木」は、今後の展開への「課題」として、あるいは「問題提起」として受け止めていただければ幸いです。

■ 参考図 ; 土木界と市民社会の関係を考える



- ①は、「土木界も市民社会もともに分かっている（合意できている）」という話題の領域です。緑色の矢印が示す、「これが土木」という合意は、本コラムでは取り上げません。
- ②は、「土木界は分かっているが、市民社会は知らない」という話題の領域です。これは青色の矢印が示す、「これも土木」という本コラムで中心とするテーマです。
- ③は、「土木界は分かっているが、市民社会は知っている」という問題の領域です。これは赤色の矢印が示すように、「これが土木」として一旦受け止め、今回のコラムでは、市民社会の意見を考察し、他方で土木界の問題点を検証しているところです。
- ④は、「土木界も市民社会も知らない」という未知の領域です。これは茶色の矢印が示すように、「これも土木」を超えた、「これまで土木?」への挑戦です。筆者は、来るべきVUCAの時代を生き抜くには、そういう発想こそが必要だろうと思います。

以上

## ▼フレンズコーナー

「二刀流 徳島の橋カード 48 橋 吉野川版」  
の作成とその活用

阿南工業高等専門学校  
創造技術工学科  
建設コース 教授  
森山 卓郎



## ■はじめに

川の多い徳島県には、様々な橋があります。徳島県では昭和の初めに、「橋を見るなら徳島に行け」と言われるほど、その時代の技術の粋を結集してつくられた当時国内最大級の橋が吉野川や那賀川などに建設されました。その後も徳島県内には、大鳴門橋のような長大橋や環境に配慮してつくられた阿波しらさぎ大橋、河川に架かる橋としては国内最大級の吉野川サンライズ大橋など、大正末期から令和の今日まで様々な大きな橋が架けられました。船が通るときに橋桁が上昇する可動橋の加賀須野橋や第1次世界大戦の際に青島で俘虜となり、鳴門の板東俘虜収容所に収容されていたドイツ人兵士がつくった石造アーチのドイツ橋、祖谷のかずら橋などのユニークな橋もあります。

筆者は、小中学生に遊びながら地元徳島の橋に興味を持ってもらえるように、徳島県板野郡北島町にある建設コンサルタント会社の株式会社エー・アンド・ビーの協力により、「徳島の橋かるた 48 橋 全県版」を2021年に700セット作成し、希望者に無料配布しました(図1)。かるたの絵札には徳島県内全域から様々な構造や色の48の橋の写真を用いました。橋の写真は、すべて協力企業が撮影しました。絵札の裏面には、子供にもわかるような表現で、その橋についての説明だけでなく、橋から見た徳島の地理や歴史などの説明文も記載しました。かるたのフチなどの色は、徳島県特産の阿波藍を意識して藍色をベースとしました。

その続編として、「徳島の橋かるた 48 橋 全県版2」を2022年に700セット作成し、希望者に無料配布しました(図2)。吉野川サンライズ大橋など、前回のかるたで入れられなかった橋や新しくできた橋の写真を用いました。これらのかるたに入れた橋の写真を用いたクリアファイルやカレンダーも作成し、これらも希望者に無料配布をしました。



図1 徳島の橋かるた 48 橋 全県版

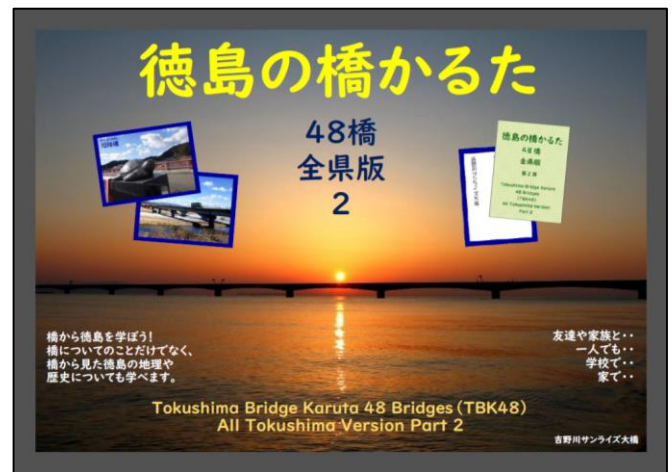


図2 徳島の橋かるた 48 橋 全県版2

## ■橋カードの作成

過去2回の徳島の橋かるたの番外編的な位置付けとして、2023年4月には、公益財団法人 阿波銀行学術・文化振興財団の2022年度助成と公益社団法人 土木学会の公益増進資金助成により、吉野川に架かる橋の写真を用いた「二刀流 徳島の橋カード 48 橋 吉野川版」を700セット作成しました(図3~5)。現在、吉野川に架かる46の橋だけでなく、既に撤去された旧穴吹橋と大川橋を入れた48の





図3 「二刀流 徳島の橋カード 48橋 吉野川版」の外箱表面と内箱裏面



**1.吉野川サンライズ大橋**  
 (よしのがわサンライズおおはし)

完成 2022年  
 橋長 1697m  
 架橋地点 徳島市東沖州一徳島市川内町(吉野川)

徳島南部自動車道の徳島JCTと徳島沖州ICの間に架かる橋である。吉野川の最も河口にあり、河川に架かる橋としては国内最大級である。15の区間(15径間)からなるコンクリートの箱桁橋という構造である。周辺の環境にも配慮してその構造が考えられた。橋の付近は日の出が美しく、新しい夜明けを表すなどの理由から、一般公募でその名称が付けられた。吉野川の橋としては初めてカタカナの入った名称である。

図4 絵札の表面と裏面の1例

橋の写真を用いました。このカードは、かるたとしても遊べるだけでなく、独自のカードゲーム「橋並べ」も遊べる二刀流になっています。「橋並べ」とは、トランプの七並べのように、河口の吉野川サンライズ大橋(1番)から山間部の大歩危橋(46番)までの番号を入れた橋のカードを順番に並べて早さを競うものです。番号が入っていない旧穴吹橋と大川橋はこのゲームには使用しませんが、かるたで遊ぶときはこの2枚も入れた48枚のカードを使用します。

■橋カードの配布

今回もまず、阿南高専のホームページや徳島新聞でのアナウンスにより、希望者に無料配布する旨のPRを行いました。その後、NHK徳島放送局の取材の依頼がありましたので、同局のニュース番組「とくしま645」で紹介していただきました。徳島県内だけでなく、四国4県に流れる朝のニュース番組「おはよう四国」でも紹介していただきましたので、その効果もあり、県内



図5 読札の表面の1例と裏面

でも紹介していただきましたので、その効果もあり、県内



写真 1 出前授業の様子

外の多くの方から欲しいという連絡をいただきました。「徳島の橋ウォッチングをしたい」、「子供に橋のことを教えたい」、「自由研究に活用したい」などの声が寄せられました。前回までの「徳島の橋かるた」と同様に、徳島県立図書館から寄贈の希望もありました。他にも、大鳴門橋架橋記念館エディからも寄贈の希望の連絡がありました。

本校の校長や教員が県内のほぼすべての中学校に広報活動で訪問した際には、徳島の橋カードとクリアファイルを渡してもらいました。筆者自身も阿南市役所に届けて、市内すべての小学校と児童館に配布を依頼しました。

一般の方からは、子供や孫がいる方から毎回欲しいという連絡がたくさんあります。年配の方だけでなく、小さい子供からお礼のお手紙をもらうこともありました。

### ■橋カードの活用

2023年8月に、阿南高専中学生一日体験入学において、この橋カードを活用した講座を行いました。建設コースの講座に参加した中学生が8テーマに分かれたため、このテーマに参加したのは4名だけでしたが、皆しっかりと取り組み、楽しんでくれたようでした。そのうちの1名は、2年前に県内の中学校で「徳島の橋かるた」の出前授業を行ったときに参加していた生徒でした。

2023年10月には、県内の中学校の1年生28名に、このカードを活用した出前授業を行いました。橋カードを用いた「橋並べ」だけでなく、「橋かるた」もしてもらいました。いずれも6テーブルに別れて実施し、各テーブルの勝者で最後に決勝戦を行いました。生徒は皆、熱く盛り上がってくれました。終了後にアンケートを行ったところ、「すごく楽しかった」や「橋のことを知ることができてよかった」など、良好なコメントが多く見られました(図6)。担任の教諭から後日、生徒の感想を1枚にまとめられたものをいただきました(図7)。

このカードで遊んだ生徒さんから、未来の橋梁技術者が誕生してくれば幸いです。

- 2.「徳島の橋かるた 吉野川版」で「橋並べ」をやってみた感想を教えてください。  
めっちゃ楽しかったです。難しいと思ってたけど、やってみると意外にできて、いろんな橋のことも知れてよかったです。
- 3.「徳島の橋かるた 全県版」で「橋かるた」をやってみた感想を教えてください。  
とても楽しみにしていたので、良い思い出になりました。
- 2.「徳島の橋かるた 吉野川版」で「橋並べ」をやってみた感想を教えてください。  
橋の名前が色々かかれてあって、写真もあったので、わかりやすかったです。
- 3.「徳島の橋かるた 全県版」で「橋かるた」をやってみた感想を教えてください。  
それぞれの橋の特徴があって勉強になりました。
- 8.その他 今日の出前授業の感想など、何かありましたら自由に書いてください。  
今回の授業で橋について興味かかたし、しげつ業で色々な身近なことも知れたので良かった。高専についても知れたので良かったです。
- 8.その他 今日の出前授業の感想など、何かありましたら自由に書いてください。  
知らない橋ばかりかかたおせまでのおゲームもして橋の病を知ることがいいなと思いました。楽しく良かったです。

図6 アンケートにおけるコメントの例

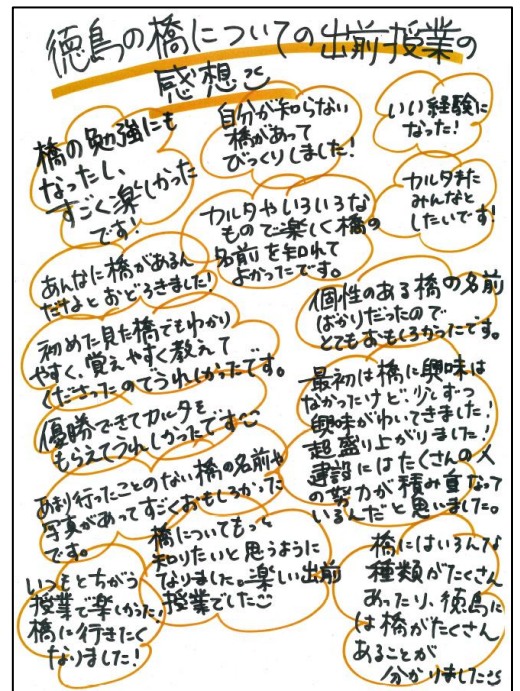


図7 担任の教諭が作成した生徒の感想

CNCPは、  
あなたが参加し、  
楽しく議論し、  
活動する場です！

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人  
シビルNPO  
連携プラット  
フォーム

●登録事務所

〒110-0004  
東京都台東区下谷  
1丁目11番15号  
ソレイユ入谷9F

事務局長 田中努：

cncp.office@gmail.com  
ホームページ URL：  
<https://npo-cncp.org/>



## ▼事務局通信

### ■10月の実績

●第114回経営会議

開催日・場所：10月10日（火） Zoom会議  
議題：各事業の進捗よくと予定

### ■11月の予定

●第115回経営会議

開催日・場所：11月14日（火） Zoom会議  
議題：各事業の進捗よくと予定

### ■現在の会員と仲間の数

- 会員：賛助会員30／法人正会員10／個人正会員26  
／合計66
- 仲間：サポーター107／フレンズ120／土木と市民  
社会をつなぐフォーラム15／インフラパートナー18  
／合計260

●CNCPの活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただ  
いています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発  
／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイ  
アート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シン  
ワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹  
中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛島  
建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサル  
タンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田  
建設工業（以上30社）



土木と市民社会を インフラパートナー  
つなぐフォーラム JSCE 土木学会